国際建設測定基準（ICMS）について

ICMS は、国や地域を問わず建設プロジェクトのコスト比較と評価を国際的なルールにそって可能にするコスト分類システムであり、一貫性を持った定義やフォーマットで構成されています。

当協会および各国の建設関連専門機関からなる ICMS 連合は、用地や施設の取得時における投下資本やコストの比較評価を対象とする ICMS 第１版を 2017 年 7 月に、2019 年 9 月には施設の運営管理に必要なライフサイクルコスト（LCC）を加えた第２版（英語版）を公表し、当協会はそれぞれについて日本語版を作成しました。

積算基準や商習慣は国によって異なり、費用の表現や解釈の違いにより提示額に 25～30％もの隔たりがあることが確認されています。このことは、発注者の投資リスク等の増大にも結び付くとして問題となっていました。その回避のため、共通的概念でプロジェクト評価ができる ICMS が整備されました。

ICMS の第２版は、第１版の内容を拡張し、不動産（土木構造物を含む）の取得から処分に至るまでに投下される費用一切の分類に対応しています。このように、建設プロジェクトのあらゆる資本的支出に対応したことで、国際財務報告基準（IFRS）や国際評価基準（IVS）との連携が強化されました。

また、BIM とのコスト管理分類体系の連携も考慮されています。そのため、わが国で官民をあげて活動している「建築 BIM 推進会議」の主要テーマのひとつである、分類体系および積算・コストマネジメントシステムの構築にも活用できるものと考えています。

ICMS 第１版公表時の様子（2017 年 PAQS 国際会議バンクーバー大会にて）